



暦は12月。師走に入りました。県内でのコロナウイルス感染が連日の様に報道されています。先週、県の警戒レベルが「3」に引き上げられ、感染防止対策の徹底が望まれる日常です。学校でも、原点に立ち返って「2慣・3密・4絶」の再確認と感染防止の対応を丁寧に進めてまいります。

アリーナいっぱい響いた“歌声と演奏” 11/28(土)「いちよう音楽会」 ～多くの方々の支援の下に・・・感謝。～

こうしたコロナ禍の中、11月28日(土)には、伝統ある「いちよう音楽会」を開催することができました。本校アリーナいっぱいに、素晴らしい歌声、素敵な演奏が響きました。各学年の「めあて」や「テーマ」に向かって取り組んできた姿を、管弦楽部や音楽クラブで求めてきた姿を、「いちようのステージ」で、思いっきり、思う存分に「表現」することができたと感じています。「表現」した後の表情には、やりきったという達成感や満足感、成就感と共に、安堵感も伝わる笑顔が見られました。「いちよう音楽会」という「一つの山」をみんなで歩みながら創り上げきた活動が、一人ひとりの確かな成長を促している、そう強く感じた瞬間でありました。

いちようの子の願いや思いが歌唱・演奏の技術や技法を高め、高まった技がより意欲を生んで、より洗練された姿へとつながっていく。陰には、熊倉音楽主任を中心に、各学級・学年の担任チームが懸命に支援・指導する姿と、管弦楽部の活動にボランティアで関わっていただいた3名の外部スタッフの指導の場がありました。初の本校アリーナ開催には、詳細な計画と緻密な段取りも求められました。一方で、コロナ禍における感染防止や細心の注意、また最悪を想定しての配慮事項なども視野に入れておく必要もありました。Zoomによるオンライン配信もその一つのチャレンジとなりました。様々な視点や視座から連日検討を進め、多くの方々に支えられ



て当日を迎えたところです。

保護者・ご家族の皆様にはアリーナでの参観が叶わず、校長としましては断腸の思いでありましたし、チャレンジしたオンライン配信（ライブ配信）は音声の一部に不安定もありご心配をおかけしましたが、いちょうの子どもたちにとって思い出に残る場としての音楽会になりましたこと、確かな成長が促されたこと、また、保護者皆様にご理解とご協力をいただき無事に開催できましたことに、まずもって、心から感謝申し上げる次第です。

後日談になりますが、昨年度3年きずな学年の担任をしておりました醍醐絵里奈教諭が「いちょう音楽会」前日の27日（金）に、南米ペルーのリマ日本人学校に向けて山形を出発いたしました。コロナ禍において渡航制限が掛かっておりましたが、文部科学省からの許可があり、羽田発アトランタ（米国）経由便で渡航した次第です。なんと！そのフライトの途中から、Zoomによるオンライン配信にアクセス。ライブ配信の一部始終を見て、感激のメールを校長宛送信してくれたのです。世界のどこにいても繋がる時代、ICTにおけるグローバル社会を垣間見た想いです。リマ日本人学校とのオンライン合同授業も夢じゃない！（時差14時間で、かなり困難そうですが…）そんな予感がします。



<いちょう音楽会 6年片山こなつさん 終末のナレーションより>

コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、今日のいちょう音楽会が開催できるかどうか、不安に思うこともありました。でも、今、無事に合唱や演奏を終えることができ、ほっとした気持ちです。1年生、2年生、3年生、4年生、5年生、6年生、どの学年も、学年のめあてに向かい、心を1つにしてハーモニーを響かせました。特に6年生は、合奏ができず、悔しい思いをしましたが、その分、合唱に精一杯の思いを込めて歌いました。

今年度は、このアリーナでの開催でした。例年のようなステージではなかったかもしれないけれど、わたしは、親しみのあるこの四小のアリーナで歌えたからこそ、わたしたちらしい歌声を響かせることができたのではないかと思います。いちょうっ子の思いが伝わるステージになりました。最後まで、温かい拍手を送ってくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

これをもちまして、令和2年度「いちょう音楽会」を終了させていただきます。ありがとうございました。